

パブリックコメントと区の考え方について

1 実施期間:令和 7 年 11 月 15 日(土曜日)から令和 7 年 12 月 6 日(土曜日)まで

2 意見:4 件

NO	パブリックコメント	区の考え方
1	本ビジョンの課題として「スポーツ実施率の向上」が挙げられている。既にスポーツを実施している人に頻度を上げることも重要だが、スポーツを全く行わない人の割合を下げることも重要な視点だと思う。指標を設定する際には、スポーツをしなかった人の割合も設定する必要があると思う。	ご指摘のとおり、今後のスポーツ振興において、今までスポーツを実施しなかった人がスポーツを実施するようになることは、大変重要な視点と捉えております。目標とする指標に、「直近1年でスポーツをしなかった人の割合」を記載させていただきます。
2	本ビジョンにおいて、基本目標の2にユニバーサルスポーツの推進が設定されているがユニバーサルスポーツを推進するためには環境の整備のみならず、体験会の継続的・定期的な実施が必要であると考え。具体的にどのような施策を通じてユニバーサルスポーツを推進していくのか、また、どのような目標を持って推進していくのか明確にすべきである。	区ではユニバーサル野球、デフサッカー、シッティングバレーボール、eスポーツ等、障がいの有無や年齢、性別、国籍等を問わず、誰もが楽しんでスポーツ体験ができる「ユニバーサルスポーツ体験会」を開催しています。また、年齢や体力に関わらず誰もが楽しめる「ニュースポーツ」の推進も併せて行っています。ご指摘のとおり、継続的、定期的な施策の実施はユニバーサルスポーツを推進するうえで、最も重要な視点と捉えておりますので、引き続き、上記イベントの充実と発展を検討してまいります。 目標については、「ユニバーサルスポーツの体験や観戦に参加したことがある割合」を指標として設定し、より多くの方がユニバーサルスポーツを認識できるよう取組を進めてまいります。
3	武道の指導者の育成と普及をすべきである。	伝統文化としての武道の価値を認識し、本ビジョンの中で武道を含めた多様なスポーツ活動の推進を行ってまいります。指導者の育成については、関係団体と連携しながら必要な支援を検討してまいります。
4	① P.28 (1)スポーツに触れるきっかけづくり・情報提供 区立体育施設の利用促進	① 一層のスポーツ振興に向けて、本ビジョンでは、区民アンケートから明らかになった課題を整理するとともに、年代別の取組内容を整理いたしました。

素案では「情報提供の充実」「多様な機会提供」が掲げられているが、現状の区立体育施設(特にプール及びスタジオプログラム)の運用状況を踏まえると、働き世代を中心とした利用者の実際のニーズが十分に反映されているとは言い難いと感じる。

② スタジオプログラムの抽選漏れ問題について(利用者アンケートで累次に指摘されている点) 区立体育施設のスタジオプログラムでは、人気教室において抽選倍率が高く、「抽選に当たらず参加できない」状態が繰り返される利用者が多数存在する。利用者アンケートでも毎年同様の指摘が出ていますが、素案ではこの課題に明確に触れられていない。

③ P.33 (4)スポーツを行える場所の管理運営 指定管理者の運営姿勢と区への働きかけについて
素案では「快適で安全な環境づくり」「適切な運営」が掲げられているが、現場の運営状況を見ると、理念が十分に体现されているとは言い難い状況がある。

④ P.46 指標一覧 PDCAの扱いと行政側の理解について
本素案では、理念計画としては珍しく、PDCAサイクルの実施が明記されている。しかし、その意図が文章から読み取りにくく、区としての問題意識の所在を確認したい。

本整理では、青年期～壮年期(30～50歳代)の方向性として、「忙しくても行える環境づくり、運動不足解消のアイディアの周知などが重要である」としています。これらを基に、「いたPay健幸ポイントの活用」や「公園で行えるスポーツの推進」など、区立体育施設の活用に限らない取組を推進していきます。

② 各区立体育館で実施しているスタジオプログラムについて、プログラムによっては抽選漏れが発生することは認識しておりますが、実施に際しては、安全を第一とすることを大前提としています。そのため、定員を設け、人数を一定程度制限させていただいております。
プログラム内容につきましては、今後も利用者ニーズを捉えながら設定・検討してまいります。

③ 指定管理者への個別評価については、指定管理者制度に則った適切な評価を実施し、皆さまが快適で安全に利用できる環境づくりに努めてまいります。

④ 本ビジョンは理念計画的な位置づけではありつつ、スポーツに特化した計画であることから、実施計画的側面も一定程度含まれるため、運動実施率などの指標を設定することとしています。また、これら指標にインパクトを与える各事業の状況を把握・改善していき、指標の変化を確認することを目的として、PDCAサイクルに関する記載を行ったものです。